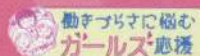


【ご寄付は・・・】

働きづらさに悩む 15 歳から 39 歳の単身女性を対象に、人のつながりの中で安心を得て、就労へ向け準備していくことを目的とした無料の講座実施と、就労体験の場の提供のための資金に充当します。個人、法人、いずれの場合も金額を問いません。



「利用者の声」「修了者追跡調査報告書」などを掲載。

<http://girls-support.info/>

【ご寄付の方法】

① 現金

来館：男女共同参画センター横浜南の事務室で、現金にてご寄付を受けます。

振込：下記の郵便振替口座にお振込みください。

※通信欄に「特定寄付」とご記入ください。

口座番号	記号 00240-9	口座番号 113865
口座名義	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会	

※当財団への寄付は税制の優遇措置が受けられます。

（法人・個人いずれも。詳細はホームページにて）

※1,500 円以上ご寄付くださった方に

「めぐカフェ」応援Tシャツ等を差し上げています。



② 古本募金

ご不用になった本や DVD 等を当館へお持ちになるか、ご自宅から電話一本で送れます。（5 冊以上で送料無料 / 提携：株式会社バリューブックス）

→ くわしくは「フォーラム南太田 古本募金」を検索

横浜市男女共同参画推進協会 ～私たちのミッション

- ・男女がともに性別にとらわれず生きる権利を尊重し、あらゆる分野に共同参画する、豊かで活力ある市民社会の活動と交流の拠点をつくります。
- ・横浜市男女共同参画行動計画に基づく事業を NPO や企業・行政との協働・連携のもと、横浜市の男女共同参画センター 3 館を拠点として全市的に展開します。



“ガールズ”の就労への一歩を 応援してください

若年無業女性のための就業支援事業に関わる特定寄附金



就労支援プログラム

1 ガールズ編しごと準備講座 2 社会参加体験(ボランティア) 3 「めぐカフェ」就労体験



(春と秋開講:各20人・全11回)
自分をみつめる / 仲間に出会う /
安心感を体験 / 情報やサポート
をつかむ



多様な人々がかかわる市民
グループの輪の中で、人の役
に立つ / 体調を整えて参加する



(通年で計24人 / のべ320回)
サービス提供側に立ち、チーム
の一員として動くことを経験

※修了者調査の結果では、回答者の約半数がなんらかの仕事に就いています。



修了者の声 ~めぐカフェブログ「実習日記」より

♡仕事のために日頃から自分をメンテナ
ンスする、時間を守る、挨拶をしっかり
する、などの練習になりました。ここ
では失敗をたくさんしてもいいと教えて
もらったおかげで、私にもできました！と自
信になりました。(K)

♡めぐカフェ実習で、悩んでいるのは自
分だけではないと知りました。お客様や
スタッフの方に迷惑をかけてしまい、落
ち込むこともありましたが、ここでたく
さんの人と接することで、今まで失っ
てしまった自信を少しだけ取り戻し、自分
がここにいてもいい存在だと思えること
ができました。(S)

♡ガールズ講座が終わった夏、めぐカ
フェの立ち上げから関わりました。接
客や広報などを学び、現場実習に。こ
こに来る前は怒られるのではないかと不安で
した。でも、お客様から「このカフェ
に来るのを楽しみにしています」と言
われてうれしかったです。相談できる
人もできました。今は週に4日、事務
のアルバイトをしています。(I)



「めぐカフェ」
開設5年

就労体験、地域協力で前進

女性の自立支援に手応え



施設を運営する市男女共
同参画推進協会は、人間関
係の悩みや心身の不調など
で仕事ができない女性を支
援しようと、09年から就労
準備講座を始めた。講座は
年2回、11日間で30名が参
加し、履歴書の書き方などを学
ぶ。講座修了後、就職へ向け
た経験を積み重ねることを
目的で、10年11月に喫茶店

女性の活動を支援する施設「フォーラム南太田」に2010年11月、就労
体験の場「めぐカフェ」が開設されて5年が経過した。人間関係や精神的な
悩みから働きづらさを感じる女性をカフェ勤務を通して支援、就労体験者約
100人うち、半数近くがその後、就労を果した。施設側は「地域団体
の活動参加で幅が広がった」と今後外部の協力を得ながら事業を進める。

カフェで接客するスタッフ
これまでの5年間で93人
が仕事を体験。施設によ
ると、20代前半から30代前
半が多いとい
う。体験者の
うち42人がそ
の後、仕事に
就くことがで
きた。飲食店
や病院の受
付事務など

「めぐカフェ」を施設1階に
開設。修了生の希望者が勤
務を行っている。カフェ勤
務では、あいさつなど、仕
事をする際の基本的な心構
えを10日間で身に付ける。
その後、20日間、接客や調
理補助を行う。仕事は1日
3時間
終了後、半数が仕事に
就く。これまでの5年間で93人
が仕事を体験。施設によ
ると、20代前半から30代前
半が多いとい
う。体験者の
うち42人がそ
の後、仕事に
就くことがで
きた。飲食店
や病院の受
付事務など

「人の輪」に入る
開設当初から事業を担当
してきたフォーラム南太田
の小園弥生さんは「最近の
講座参加者は、小中学生の
ころから学校や家庭に安心
感を持って育った人や長
期の不登校を経験した20代
前半の人が多い」と話す。
「安心して人の輪の中にい
る経験が大事」とし、カ
フェでの体験に加え、こ
の2、3年は地域団体の活動
に参加し、社会経験を積む
ことを増やしている。
古布や着物のリサイクル
を行う団体、ファイバーリ
サイクルネットワーク「宿
町」では、イベントの商品
整理や搬入を行う。ほか
の団体では工作教室や野菜
販売などを手伝う。小園さ
は「外部で居場所や役割
を与えられるのは彼女たち
の自信につながる」とい
う。
自信持ち、意識変化
31歳のAさんは、フリー
ターや契約社員を経験した
が、この数年はバイトの面
接に受からなくなっていた。
「自分に自信がなくなってい
た」というAさんだが、講
座と就労体験を通して「以前
は何かをする前にあきらめ
ていた意識が変わった」と
話す。29歳のBさんは「同
じような悩みを持つ人がい
て、前向きになれた」と話
す。今ではカフェ内の掲示物作
成などで活躍の場を見出し
ている。
カフェを担当するフォー
ラム南太田の関根崇年さん
は「地域の方の支えを得な
がら、誰もがほっとできる
場を作りたい」と話し、外
部との連携を意識していく。

2015年11月26日
「タウンニュース」
南区版

メディア掲載・放送実績

- ・日本経済新聞2010年11月16日「就労体験で“脱”ひきこもり」
- ・朝日新聞2011年12月9日「置き去りにされる“家事手伝い”」
- ・NHK2012年5月16日「ハートネットTV」
- ・読売新聞2014年10月21日「女性の貧困 若い世代への支援少なく」
- ・朝日新聞2014年5月21日「ガールズ講座好調 修了者の半数就労」
- ・神奈川新聞2014年6月4日「受け入れられる安心感～“ガールズ”追跡調査から」
- ・NHK2014年9月24日「あさイチ」

